国立大学法人
浜松医科大学

NEWSLETTER

2014.10 Vol.41 No.1

トピックス「保健管理センターが新しくなりました」「半田山会館の改修について」

すべての学生と職員の こころとからだの健康のために

トピックス　1〜5

新執行部スタッフ一覧　1
新任役員・副学長・学長特別補佐の紹介　2〜3
保健管理センターが新しくなりました　4
半田山会館の改修について　5

研究最前線　6

妊娠中の母親へのストレスが成長後も子どもの
脳に影響を残す原因の一端を解明　6

新任職員の紹介　7〜8

海の向こうで　9〜10

22th IFCC-World Lab Istanbul 2014に参加して　9
ニカラグアでのボランティア活動に参加して　10

大学ニュース　11〜24

各種行事　11〜12
サークル紹介（男子硬式庭球部・四ツ葉）　13〜14
サークル活動の記録　15
留学生紹介　16
学会賞等受賞　17
平成26年度入学者選抜試験実施状況　18
国家試験合格状況　19
第108回医師国家試験大学別合格状況　20
平成25年度卒業者・修了者の進路状況　21〜22

卒業生は今　23〜24

患者さん中心の医療を求めて
〜急性期から在宅医療へ〜　23
出産をサポートできる助産師へ
〜産婦さん主体のお産を目指して〜　24

表紙の写真：半田山会館
平成26年 8月撮影

新執行部スタッフ一覧

平成26年4月から

浜松医科大学は、平成２６年４月から中村学長以下役員７名、副学長３名、学長特別補佐２名による新しい体制をスタートさせました。選任された役員等は各担当の責任者として、積極的な活動に取り組んでまいります。

学　長　　中村　達

理事・副学長
- 教育・国際交流担当　小出　幸夫
- 評価・労務・安全管理担当　鈴木　修

理事・事務局長
- 財務担当　前田　広（新任）

理　事
- 経営・産学連携担当　（非常勤）畫馬　明

監　事
- 西山　仁（新任）
- （非常勤）津田　紘

副学長
- 情報・図書館担当（附属図書館長）針山　孝彦（新任）
- 研究担当（メディカルフォトニクス研究センター長）蓑島　伸生
- 病院担当（病院長）今野　弘之（新任）

学長特別補佐
- 国際認証カリキュラム担当　宮嶋　裕明（新任）
- 広報・社会貢献担当　山本　清二（新任）

新任役員・副学長・学長特別補佐の紹介

理事（財務担当）・事務局長
前田　広

この4月から理事（財務担当）・事務局長に就任しました。

私の出身は長崎県北松浦郡で、前職は名古屋大学の財務部長です。浜松に住んで数か月、海、山、川に加えて浜名湖に遠州のからっ風、車や楽器などのものづくり産業に豊富な農産物、そして本学も関わっている光の尖端都市など、いろいろな顔を見せてもらっています。

モットーは「チームワーク・ネットワーク・フットワーク」です。メンバー間で相互に協力し助け合うチームワーク、人や地域とのつながりであるネットワーク、状況に応じて素早く動くフットワークが仕事をする上で重要と考えています。

昨年11月に文部科学省が公表した「国立大学改革プラン」では、国立大学の機能強化を促進するためグローバル化やイノベーションの創出、人事・給与システムの弾力化などを求め、また、第３期中期目標期間に向けて運営費交付金のあり方も見直すこととしています。

本学にとって厳しい状況が続きますが、優れた医療人を養成するとともに地域医療の中核的役割を果たせるよう、「チームワーク・ネットワーク・フットワーク」を合言葉に、皆様のご協力をいただきながら努めてまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

監事
西山　仁

本年４月より常勤監事をおおせつかりました西山仁でございます。早いものでこちらにお世話になり、すでに数か月が経ちました。中村学長をはじめ皆様方の温かいご支援もあり、新たな職場の雰囲気にはだいぶ慣れてまいりました。しかし、会議等では医学教育・研究分野で使われる専門用語が飛び交い、私にとって聞き慣れない専門用語が目白押しで、自分の席に戻るとその意味を調べるため、インターネットと睨めっこの毎日です。

私は浜松生まれの浜松育ち。浜松医科大学が開学した同じ時期に地元の静岡銀行に入行し、本学の歴史と同じ約40年を銀行業務や保険関連業務に携わってきました。若い頃は西部地域中心に一貫して営業に従事してきましたが、後年には監査業務の責任者として、業務執行部門からは独立した立場から組織運営状況を見る業務を経験することができました。

最近時、監査業務に求められる役割の重要性が一段と増しております。これまで培った経験を生かしながら日々研鑽に努め、本学の使命である教育・研究・診療・社会貢献の面で、今まで以上に存在感があり、そして社会に期待される大学に発展していくよう、少しでも貢献できればと思っております。ご指導ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

副学長（情報・図書館担当）
針山 孝彦

本年4月より、中原大一郎教授の後任として情報・図書館担当副学長および附属図書館長を仰せつかりました。併せて、総合人間科学講座生物学教授を兼務しております。

世界情勢は、拍車をかけて混沌としているようです。わが国を支える人材を輩出する大学は、より一層の努力が迫られ、世界レベルの教育と研究の両輪を整えて推進していかなければなりません。新たな時代の大学人としての責務は、これまでの慣習に則ったものだけでは達成できないという危機感を感じつつ、その重責をどのように果たすかじっくり考える時間も許されないほどの、待ったなしの状況におかれています。

病院を抱える医学部は、病院と大学が一体となった情報管理を心がける必要があります。また、円安と消費税増税にさらされている図書館運営ですが、その教育と研究を支える任務を放棄するわけには参りません。おかげさまで、浜松医科大学の情報関連や図書館職員の皆様のレベルは高く、私を教育し支えるために種々の方策をとってくれています。

学生も若き研究者も、天からの預かりもので、彼らの活躍なくして次世代はありません。彼らが縦横無尽に学び働ける環境作りを、職員と共に一丸となって進めて参ります。

副学長（病院担当）
今野 弘之

4月より副学長（病院担当）兼附属病院長を拝命いたしました。本稿を執筆している現在、既に就任後4カ月以上を経過し各診療科のヒアリングも全て終えましたので、今後の運営方針と課題を中心に述べさせていただきます。

最先端医療の提供は大学病院の使命の一つであり、一般病院では実施困難な高度な医療を行うことが求められています。これまでのヒアリングで全ての診療科が、最先端・最高度の医療を限られた資源の中で提供していただいていることを改めて実感しました。質の高い高度な医療を継続して行うためには、十分な人員と最新の医療機器を確保することが必要ですが、そのためには「健全な病院運営の確立」が前提となることも、また事実です。病床の有効利用、救急医療の拡大、手術件数の増加等、当該部署のご理解を得ながら徐々に進めていきたいものと考えています。

これらの課題の達成は経営面のみならず医育機関としての本院の使命である、優れた医師・看護師の育成においても極めて重要です。また、多くの研修医、専攻医に本学プログラムに参加していただき、社会・地域医療へ貢献できる専門医を育成するために、懸案である本学勤務期間の奨学金返済期間への充当について、一丸となって行政に働きかける必要があります。さらには、女性医師の支援のための環境整備や、医療の変化を先取りした体制の整備も行いたいものと考えております。

大学病院としての使命を果たすためには克服すべき課題も山積していますが、一体感のある医療チームとして皆様と一緒に歩んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

学長特別補佐（国際認証カリキュラム担当）
宮嶋 裕明

現在米国で臨床研修を行うためには、日本の医学部を卒業したうえでUSMLEの各試験を合格し、ECFMG certificate（米国医師資格）を得る必要があります。ところが2010年9月に突然、米国医学校協会、World Federation for Medical Education (WFME)などの国際基準に認定されていない医学部からの卒業生には2023年から受験資格を認めないとECFMG宣言が出されました。現状の日本の医学教育では臨床実習の質と量がともに課題です。そこで全国医学部長病院長会議、文部科学省の支援のもとで日本医学教育認証評価評議会 Japan Accreditation Council for Medical Education (JACME)が立ち上げられ、各医学部は2023年までに自己点検による自主的な教育の質保証を行い、JACMEによる認証評価を受けることになりました。認証評価はWFME国際基準に則り、日本の実情に合わせて策定された基準が用いられる予定です。ポイントは、診療参加型臨床実習の拡充とOutcome-based education (OBE)です。学生が卒後すぐに医療チームの一員として、責任をもち医療を実践できるようにする教育が求められます。

この度、教育プログラム改革を進めるよう国際認証カリキュラム担当に指名されました。全学の皆様のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学長特別補佐（広報・社会貢献担当）
山本 清二

本年４月より、広報・社会貢献担当学長特別補佐に就任いたしました。併せてメディカルフォトニクス研究センター教授と産学官共同研究センター長を兼務しています。改めてここにご挨拶申し上げます。

私は本学の１期生で、メディカルフォトニクス研究センターで行っている光技術を活用した基礎・応用研究の経験と脳神経外科医であるというバックグラウンドを生かし、産学官共同研究センターでは知財活用推進本部との協働により、大学内外における産学連携・医工連携の「ワンストップ窓口」として医療機器の開発・事業化の支援から、薬事規制の相談、医療ニーズの収集、医工連携のマッチングまで幅広く対応しています。

本学は、現在すでに社会貢献を積極的に行っていますが、各企画室が分散して担当しており、戦略的に展開される体制がないために、「散発的である」と指摘されても否めない側面があります。教育、研究、病院、広報等の活動には「社会」「地域」「産学」という社会貢献に関連するキーワードが密接に関係していますし、社会貢献活動は多岐にわたります。今後、まず、社会貢献活動全体を把握できる体制を整え、全体を俯瞰してより戦略的に進められる体制にしていくべきだと思います。同時にそれらを分かりやすく周知することが必要で、「見せる」広報を行うことも重要です。その結果、初めてより効果的な社会貢献が実行でき、社会・国民、国に対して、本学の「社会貢献」に対する説明責任がより明確に果たせるものと考えます。しかしながら、これは「言うは易し」で、実際に実行するとなると、本学のみなさん一人一人のお力が必要です。今後、広報・社会貢献活動を積極的に進めるにあたり、多くの皆さんのご理解とご協力を賜りたくお願い申し上げます。

保健管理センターが新しくなりました

すべての学生と職員のこころとからだの健康のために

保健管理センター　講師　**橋本　大**

はじめに

浜松医科大学に保健管理センターが開設されたのは、開学12年目の昭和60年（1985年）で、今年30年目を迎えました。当初は学生への健康支援活動が中心でしたが、平成16年の法人化に伴って職員の健康支援も業務として加わりました。ですから、保健管理センターの業務の目的は、すべての学生と職員のこころとからだの健康のために助けとなることです。今回、平成25年度の臨床講義棟の改修にあわせて保健管理センターも改修していただきましたので、改修点を業務内容とあわせてご紹介します。

①面談室の新設

プライバシーを十分に尊重できる環境として、ゆったりとした面談室を新設しました。学生に限らず職員からのメンタルヘルスに関する相談は年々増加しています。社会生活の多様化・複雑化に伴うストレスの増加、発達障害を抱えた学生の増加などがその要因といわれています。対人関係の悩み、進路・将来への不安、家族関係の問題、社会性の未熟さ等の問題は、20歳前後の学部学生から大学院生、40代50代の職員まで様々です。人目をはばかり我慢する、あるいは自分一人で抱え込むことは病態を悪化させます。早い時期に専門職に相談することがとても大切です。今年度から保健師2名で相談に対応しています。そして、精神科医の相談はもちろんのこと、臨床心理士の面接も受けることができるよう体制を整備しました。どなたでも気軽に相談にいらしてください。

ゆったりとした面談室

②健康診断の実施における改善

毎年実施される4月の学生定期健康診断、6月の職員定期健康診断は、それぞれ学校保健安全法と労働安全衛生法に基づいて行われています。学生1,200人、職員1,900人の健康診断を短期間で行なっているため、混雑の問題やプライバシー保護の問題が指摘されてきました。今回の改修では、健康診断の順路を一方通行にできるようにして動線を改善しました。また、保健師の面談や医師の診察もプライバシーに配慮した空間を確保しました。そして、隣接する倉庫が利用できるようになったため、レントゲン撮影のための着替えスペースとしての空間がとれました。

機能向上と動線改善を施し、全体が明るく広々とした空間になりました

③セルフケアラウンジ

入り口を入ってすぐのところに、誰でも利用可能なセルフケアラウンジを設置しました。自動血圧測定器や自動身長体重・体脂肪測定計、自動視力計を設置しました。参考書籍や健康づくりの資料やパネルも設置しました。日当たりのよい自由にくつろげる空間となっていますので、いつでもお立ち寄りください。

日当たりのよいくつろぎ空間セルフケアラウンジ

他にも受付窓口の設置やトイレの改修など、現在のニーズに合わせた施設に生まれ変わっています。これもひとえに学長はじめ理事の先生方のご理解とご協力のおかげと感謝しております。また、保健管理センターには体調不良時の休養ベッドが備えてあります。その他、学生への予防接種、健康診断証明書の発行、附属病院受診の際の紹介状作成などの業務も行っています。

すべての職員・学生にとって快適なキャンパス・職場となるように、お手伝いしたいと考えております。保健管理センターを大いに活用していただけることを、スタッフ一同、願っております。

スタッフ

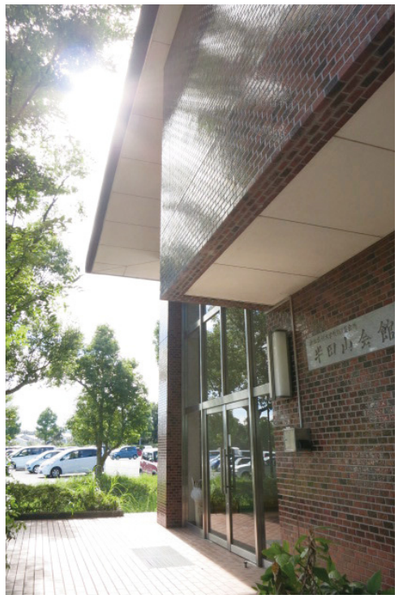
センター長	宮嶋裕明
講師	橋本　大
保健師	内藤由美
	糟谷修子
校医　内科	杉本　健
内科	安田日出夫
精神科神経科	亀野陽亮
カウンセラー	井上　淳

半田山会館の改修について

施設課課長補佐　**戸島 準一郎**

半田山会館は、本学敷地の入口となる信号交差点の近くにある、教職員のための宿泊施設です。4月から7月にかけて2階宿泊室を改修する工事を実施し、このたび9月から利用を再開する運びとなりました。

写真をご覧のとおり、赤レンガ調の外壁と屋根が印象的で、周りの木々とともに山荘のような雰囲気を醸し出しているのが半田山会館です。昭和54年に、1階は集会室等の共用部分、2階は宿泊スペースとして建設され、宿泊室は2室のみバス・トイレ付のシングルルーム、6室はツインルームで浴室と洗面・トイレは共用のものが設けられていました。かつては1階のダイニングで食事を提供していた時期もあり、交通の利便性がいまひとつであった立地条件の中、重宝する施設であったことがうかがえます。



赤レンガ調の外壁と屋根が印象的な半田山会館

シングルルーム2室は、ビジネスホテルのような使い勝手が長期滞在の方などに好評で、高い利用率を得ていました。一方、他の6室はツインルームとしての需要が少ないためか、利用状況はあまり良好とはいえませんでした。近年では交通の利便性が向上したことや、市街地に宿泊施設が増えたこともあり、更なる稼動率の低迷を招いており、この施設をいかに有効活用していくかが、かねてからの課題となっていました。

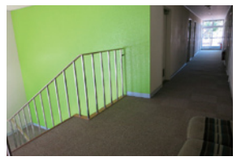
そこで平成23年、事務局では、半田山会館の有効活用について検討する中で、宿泊室の全室シングル化を中心とした改修計画を立てるとともに、学内から有効利活用に関する意見を募りました。その結果を受け、宿泊室のシングル化と併せて防災倉庫の設置を盛込んだ利用計画案を策定し、今回の改修工事を実施しました。この改修にあたり、シングルルームとなった全ての宿泊室にはユニットバスを設け、浴室・トイレの個室化を図っています。

自然光が差し込む個室

全ての宿泊室にユニットバスを設置

本学に来訪される方々に広くご紹介いただくとともに、教職員の皆さまにも、ぜひご活用いただければと思います。エントランスではケヤキのシンボルツリーが、建物の中に入ると周りの木々の緑をあしらったライトグリーンの吹抜けが、皆さまをお迎えいたします。半田山会館からアプローチする風景の中で、いつもと違う大学と病院の表情に出会えるかもしれません。

シンボルツリーのけやき



吹き抜け階段の壁はアクセントウォールとして新緑を模したライトグリーンに

広々とした開放感のある吹き抜け階段

妊娠中の母親へのストレスが成長後も子どもの脳に影響を残す原因の一端を解明

神経生理学講座　教授　**福田敦夫**

妊娠中の母親のストレスが、胎児の脳の抑制性神経細胞のうちの一部の種類の発生を障害し、成長後もその影響が残ることを、遺伝子改変動物をつかって突き止めました。自閉症スペクトラム障害や統合失調症で見られる脳の病理所見との類似から、これらの疾患の病因との関連性が示唆されました。この研究は、大学院生の内田琢君(現・福岡大学研究員)が主に行い、論文は米国の科学雑誌「Translational Psychiatry」電子版に掲載され、新聞でも紹介されました(2014年5月22日付朝日新聞朝刊)。

自閉症スペクトラム障害や統合失調症などは、脳機能の広汎な発達の障害が基盤にあると考えられています。脳の発生は遺伝的プログラミングによりますが、発達期の脳はダイナミックに環境の影響をうけ、自閉症や統合失調症などでみられる脳の機能的発達の障害には、遺伝と環境が相互に影響しあうことが関係するのではないかと考えられています。なかでも、これらの疾患の発症リスクと妊娠中に受けたストレスとの関連性を示唆する報告は数多くあります。また、γアミノ酪酸(GABA)を伝達物質とする抑制性神経システムの異常も示唆されており、特に、認知機能を司る前頭前皮質におけるGABAの合成酵素GAD67とそれをコードする *GAD1* 遺伝子の減少が注目されています。最近は、母体ストレスによっておこる胎児の脳発達への影響に、この抑制性神経システムが関係するのではないかと疑われていましたが、どのようなメカニズムで影響するのか、わかっていませんでした。

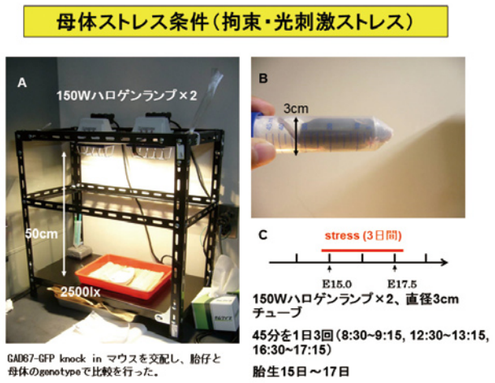
今回我々は、*Gad1* 遺伝子が減少した細胞が緑色の蛍光を発するように遺伝子改変したマウス(群馬大学柳川教授より供与)を用いて、母体へのストレス(図1)が胎児の脳の発達にどのような影響を及ぼすかを調べました。その結果、*Gad1*を半分欠損しているマウス胎仔では、ストレスによってGABA細胞の発生が障害を受け(図2)、この影響が永続することを突き止めました。特に、内側前頭皮質や記憶を司る海馬でパルブアルブミンという蛋白を持つ一部の抑制性神経細胞群だけが減少しており(図3)、統合失調症や自閉症スペクトラム障害の一部でみられる病理学的所見と類似していました。*Gad1*を欠損していない野生型では母体ストレスに暴露してもこのような変化は見られず、*Gad1*の異常(遺伝的リスク)と母体ストレス(環境的リスク)が両方あって初めて、これらの疾患にみられる所見を再現することがわかりました。今回の研究により、もともと存在する *Gad1* の発現減少という第一の要因(遺伝的因子)に加えて、母体ストレスという第二の要因(環境因子)が加わり、そこではじめてパルブアルブミン陽性細胞に分化する細胞系譜の発生抑制という特異な影響が出ることがわかりました。今後、自閉症スペクトラム障害や統合失調症患者の遺伝的背景と環境リスクの臨床研究が進んでいき、いずれは発症原因の解明に繋がっていくのではないかと期待がもたれます。

本研究は科学研究費補助金(新学術領域研究、基盤研究B、挑戦的萌芽研究)の支援により行い、内田君の他、教室員の古川君(現・弘前大学助教)、大学院生の岩田さんも貢献しました。また、基礎配属の学生も実験を手伝ってくれました。

後列右から古川、内田、福田。前列は基礎配属の学生達。

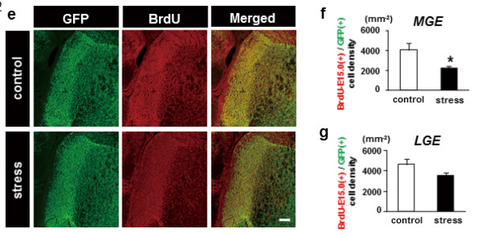
＜発表論文＞
Uchida, T., Furukawa, T., Iwata, S., Yanagawa, Y., Fukuda, A. Selective loss of parvalbumin-positive GABAergic interneurons in the cerebral cortex of maternally stressed Gad1-heterozygous mouse offspring. Translational Psychiatry 4: e371, 2014.

図1



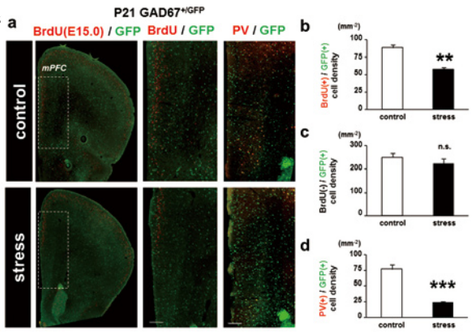
マウス母体へのストレス負荷の方法。遠沈管にマウスを入れ(B)、光に当てる(A)。

図2



胎生期に母親がストレスを受けた *Gad1* 半欠損マウスでは、ストレス中に生まれたGABA細胞(e, Merged: GFPとBrdU両陽性=黄色)が内側結節状隆起(MGE)で減少していた(f)。Uchidaら、Translational Psychiatry 4: e371, 2014、より転載。

図3



胎生期ストレスを受けると、成長後の内側前頭皮質でパルブアルブミン陽性GABA細胞(PV/GFP)が減少していた(a右, d)。ストレス中に生まれたGABA細胞(BrdU/GFP)も同部位で減少していた(a左・中, b)。
Uchidaら、Translational Psychiatry 4: e371, 2014、より転載。

総合人間科学（心理学）　准教授　**田中 悟志**

専門分野
実験心理学、神経心理学

平成26年4月1日付で総合人間科学講座（心理学）准教授を拝命いたしました。

心理学というとカウンセリングを思い浮かべる方も多いと思いますが、私の専門は「実験心理学」や「神経心理学」と呼ばれる分野です。脳と心の関係を実験により明らかにしようという自然科学分野の一つであり、例えば1981年にノーベル生理学・医学賞を受賞したロジャー・スペリー博士による大脳半球機能差の研究が有名です。

私と心理学との出会いは、神奈川県立小田原高校3年生の時でした。この頃に読んだ下條信輔先生（現カルフォルニア工科大学教授）の心と脳の関係に関する書籍が大変面白く、将来はこの分野の研究者になりたい、と思ったのがきっかけです。その頃から20年ほどたちましたが、幸運な事に高校生の頃に抱いた学問への思いは変わらず現在に至ります。

これまでは主にリハビリテーションや神経内科分野の先生方と一緒に研究をすることが多かったですが、ヒトの脳や心、行動の研究とその医療応用に関しては広く興味があります。ヒトを対象とした心理行動分析、脳機能イメージング、脳刺激法などの研究手法を専門にしていますので、もしそのようなアプローチにご興味があればぜひお声をかけてください。どうぞよろしくお願いいたします。

総合人間科学講座（数学）　教授　**古屋 淳**

専門分野
解析的整数論

平成26年4月1日付けで総合人間科学講座（数学）に着任いたしました。出身は山梨県、学部と大学院は名古屋市で過ごしてまいりましたが、浜松の地で生活するのは初めてとなります。

専門分野は解析的整数論、その中でも特に、各種誤差項の平均値定理の研究に取り組んでいます。数論的対象から生じる誤差項の平均値をどのように取り扱うか、種々の平均値の差を考えることにより一方から他方の性質の探求、関連する各種関数の解析的性質の探求等を取り扱っております。

数学は論理的思考を養うこと、学んだ公式・手法を実際にいろいろな場面に活用していく応用力を身に付けることなど「難しそうな内容」が多い分野なのかもしれません。しかし一方で数学は「解決した時の喜び」も多い分野なのかな、と自分では考えています。じっくりと考え１つ１つに丁寧に取り組み目的を目指しそして達成する、これが数学に取り組むコツであり、楽しみと思っています。数学を楽しむ、という意味で「数学」が「数楽」に感じてもらえれば嬉しいな、と感じています。

至らない点が多々あるかと思いますが、何卒、今後ともご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

精神医学講座　特任准教授　**松尾 香弥子**

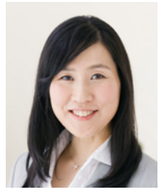
専門分野
認知神経科学

平成26年4月1日付で精神医学講座の特任准教授を拝命いたしました。深く感謝いたしております。着任の数日前までは台湾・台北市の国立台湾大学・医学院のMRIセンターにおりました。そこでは精神科との共同研究として、統合失調症や、自閉症スペクトラム、注意欠陥多動性障害などの脳イメージング研究が行われていました。それらの経験を生かし、少しでも精神医学に貢献していきたいと心より希望しております。

台湾はその美味な食品が格安で手に入ることが魅力です。豊富なフルーツ類が特に好きでした。お隣は大家さんで、ご主人が大けがをされたとき、奥様が燕の巣を煮込んだエキスで看病された話には、医食同源の中国医学の神髄をみる思いでした。

台北は冬になると毎日霧雨が降り続いて寒く、うつうつとする気候です。その点、浜松の晴天率の高さには大変助けられています。浜松にはご縁があり、私が最初に脳イメージングをさせていただいたのは浜松医大附属病院のMRI装置でした。また母方の祖先は浜松に発していると聞いています。何か運命的なものを感じつつ、気持ちを新たにつとめてまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

地域家庭医療学講座　特任教授　**井上 真智子**



専門分野
家庭医療学、
プライマリ・ケア

この4月より地域家庭医療学講座の特任教授を拝命しました。静岡県で勤務するのは初めてで、のどかな風景と地元の方々の穏やかな人柄に癒されております。

これまでは、東京の町の診療所で「家庭医」として、赤ちゃんから超高齢者まで何でも相談にのり、家族ぐるみの、また継続的な診療をして参りました。多職種や地域資源との連携により、在宅看取りまで含めて、高齢化した地域社会の現実を日々支える役割もありました。その後、大学教員となり、学生に地域医療・家庭医療学などを教えつつ、プライマリ・ケアに関する研究に携わってきております。

これから到来する超高齢化社会のニーズに対応するため、2017年より開始する新専門医制度における「総合診療医」の新設や、国際基準をみたす医学教育のための臨床実習重点化など、この分野には急速な変化が起きています。本学を中心とした、地域で活躍する総合診療医・家庭医の育成による医師不足への対応、および、日本における家庭医療学研究・総合診療教育のさらなる発展に向けて、微力ながら努めさせていただきたいと思っております。学内の皆様にはご指導・ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

臨床看護学講座・助産学専攻科　教授　**安田 孝子**

専門分野
母性看護学、助産学

平成26年4月1日付で、臨床看護学講座・助産学専攻科教授を拝命いたしました。平成16年に本学に着任して10年が経過しました。まさしく“月日のたつのは夢”でした。浜松はとても暮らしやすい所です。海と山の幸に恵まれ、食べ物とお茶が新鮮でおいしい、のんびりで穏やか、やらまいか精神で発明家が多い、由緒ある歴史を感じる、などなどです。

これまで看護師養成課程の母性看護学と助産師養成課程の助産学の教育と母子とその家族の健康に関する研究に携わってまいりました。学生が学び、成長して、卒業後に頼もしい先輩看護者として後輩の学生を臨床教育している姿を見る度に、教員としての喜びを感じます。研究においては東洋医学の考えに基づいたツボ指圧による妊婦と更年期女性の不快症状改善のケア開発や出産後の再喫煙の要因分析などの研究に取り組みました。

将来の助産師の活躍を見据えて、今が本学の助産学教育の変革の時と考えています。学部での助産学教育から1年間の助産学専攻科へ改組し、今度は2年間の大学院修士課程における教育へと準備を進めています。私自身もこれからの10年に向けて新たな一歩を踏み出していきます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

その他の主な4月1日付け人事異動は、以下のとおりです。

実験実習機器センター長（兼）技術部長	福　田　敦　夫
総務課長（兼）情報企画室長	大　森　達　郎
研究協力課長	葛　山　雅　弘
人事課長	大　谷　理　恵
会計課長	坂　本　和　浩
施設課長	向　井　和　人
学務課長	大　木　清　造
学長付企画推進室長	伊　藤　一二三
監査室長	黒　柳　年　弘
広報室長（兼）総務課	鈴　木　厚　子

22th IFCC-World Lab Istanbul 2014に参加して

検査部　臨床検査技師長　**濵田 悦子**

今年の6月22日から26日までイスタンブールで開催されたIFCC-World Lab Istanbul 2014（22th International Congress of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine）に参加し（写真1）、ポスター発表してきました。本学会の母体であるIFCC（The International Federation of Clinical Chemistry and Laboratory Medicine, 国際臨床化学連合）は、1952年に発足した臨床化学および臨床検査医学の国際団体です。International Union of Pure and Applied Chemistryの臨床化学部門（IUPAC-CCD）であり、86か国、Member45,000名、47法人を有し、9関連学会があります。臨床化学の世界の標準化の中心的機関で、日本臨床化学会は加盟学会の一つです。

臨床化学とは、“臨床”という実践に立脚した学問領域であり、分析技術を土台に据えた化学検査を医療に提供する実務サービスや、病因・病態の解明や治療・予防への寄与をめざしています。すなわち、臨床化学は学術的な側面から実践的な側面、分析化学から臨床医学まで広く包括し、これを支える多くの学問領域と接しています。従って、多岐にわたる研究者や実務家が関わっています。

イスタンブール（＝永遠の都）は世界で唯一ヨーロッパとアジアに跨がる街で、東西文化の懸け橋と言われており、西洋と東洋が入り混じった独特の雰囲気が漂っていました。宿泊先から会場まで歩いて20分位でしたが、石畳が敷き詰められた道が多く、毎日通う間に革靴の靴底がすり減り傷だらけとなったのは予想外でした。靴磨きの道具をわざと落とし、親切に声をかけてくれた日本人男性にお礼にサービスで磨くと言って料金をとる詐欺も目撃しました。

22日の夕刻から始まった開会式（写真2）では、愁いのある管弦楽演奏、特別講演（肥満と糖尿病の免疫代謝に関して）、ウェルカムパーティー（例によって飲み物だけたっぷり）と続きました。翌日からのシンポジウムは、新しい血管指標、自己抗体の展望、新技術開発など多様でしたが、特に印象的だったのは測定結果に与える様々な影響に焦点を当て、客観的なエビデンスである臨床検査値を世界中共通とするためのハーモナイゼーションに関する内容が多かったことです。

ポスター発表は1,614題を一斉に23日から25日まで掲示し（写真3）、毎日ランチタイムの2時間にプレゼンする形式でした。私の発表「A Case of Prostate cancer Producing Granulocyte Colony-stimulating Factor」は、様々な疾患や病態でG-CSFが上昇することに着目し、G-CSFの動きが重症度や予後を反映するという内容で、その一例として前立腺癌症例を発表しました。

有料の立食バッフェスタイルのバンケットは、海沿いの歴史的建造物内にモダンなレストランが入っているThe Marmara Esma Sultan で開催され（写真4）、隣接するモスクとミナレットがライトアップし幻想的でした。日本からも多くの参加者がありました。

最後に、来年度から日本臨床化学会の理事長に前川教授が内定しています。少しでも関心を持っていただけましたなら、是非ご一報いただき、一緒に活動できたら幸いです。

1 Istanbul Congress Center前にて抜けるような青空の下で

2 Opening Ceremony

3 Poster Sessions 1,614題一斉掲示　右手前が筆者ポスター

4 Social Evening (The Marmara Esma Sultan Mansion)
左側モスク、中央ミナレット、右側会場

ニカラグアでのボランティア活動に参加して

医学科４年　**中村 佳夏**

私は2014年の春に「国際サービス・ラーニング」の授業の一環として、ニカラグアでの国際ボランティアに参加しました。私がこの活動に参加したのは、以前から途上国での医療に興味があったからです。これまで自分なりに途上国について学ぶ中で、私たちが生きる日本とあまりに違う現状を目にし、無力感に苛まれてきました。しかし、今回、フィールドとなるニカラグアにおいて長年医療活動を続けているNPOであるCorner of Love（COL）の活動に参加できると知り、途上国の農村部での様々な問題点をどのように克服し、現地の人々の健康増進に寄与してきたのかを学べると考え、参加を決意するに至りました。

現地では、医療機関のない農村部への出張クリニックの活動に参加しました。COLが配付するクリニックのチケットを持つ人々は、診察や薬の処方を受け、衣類や靴、洗面用具などの各国からの寄付品を受け取ることができます。私は、患者の診察や処方する薬の準備、身体測定や寄付品の受け渡しなどの仕事を行いました。

4ヶ所の出張クリニックに参加し、まず感じたことは、提供できる医療の質の低さです。診察において使えるのは、聴診器と医療者の五感だけです。また、病院ではなく学校や教会を借りてクリニックを開くため、検査はほとんどできません。血液検査を行えるような清潔な医療器具や環境がなければ、レントゲンのような高価な検査機器もありません。年2回の臨時クリニックであるため、検査後、定期的に診察し続けることもできません。処方できる薬も限られており、粉薬に関しては粉末のまま処方しても、各家庭では細菌などに汚染された水で溶かして飲むことになってしまうため、クリニックでミネラルウォーターに溶かした上で処方します。このような状況であっても、医療機関に簡単にはアクセスできない彼らにとっては、年2回診察を受けられることはとても効果の大きいことであると実感しました。一方で、医療者の体一つでの医療しか提供できない現実がそこにはあり、日本も昔は同じような状況で医療が行われてはいましたが、同じ時代を生きる人々で受けられる医療がこうも違うのかということを痛感しました。

また、同じ農村でも人々の間に経済格差があることに驚きました。貧しさゆえチケットを購入できない人にはCOLから無料でチケットが配付されます。COLに寄付された衣類も、本当に衣類が必要なのか、どれくらい配付するべきかをトリアージされた上で配付されます。活動する中で、何百人もの村人に出会いましたが、スマートフォンを持つ子どももいれば、ボロボロの靴を履く大人もおり、明らかな身なりや持ち物の差が見てとれました。農村部内にも格差があり、農村部と都市部の間にも格差があります。そしてニカラグアのように途上国とよばれる国と日本のような先進国の間にも格差があります。ある程度の経済格差は防げないことではありますが、格差を受け止め冷静な対応ができるような広い視野を持ち合わせた医療者でありたいと思うと同時に、これからの世界を引っ張っていく自分たちの世代は、その現実を少しでも改善できるように努めなければならないと感じました。

今回の活動を経て、それぞれの国で求められている医療と、行うことができる医療が大きく違うことを実感し、それらを知ることはもちろん、文化や伝統、言語や教育環境など多くのことを知った上で、その国の健康増進のために活動する必要があると思いました。今回は他国からのボランティアの方々やCOLスタッフの方々、農村のみなさんに学ばせていただくことばかりでしたが、これから日本で学ぶことができる医療をできる限り学び、そしてよりニカラグアの人々に貢献できるような知識と技術を身につけた上で、医師として再度COLの活動に参加できたらと思います。

2014春のMission参加者
（筆者は前から2列目の左から3番目）

診察を待つ患者の列

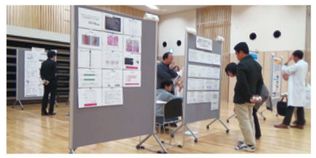
クリニックでの診察の様子

各種行事　平成26年3月1日～9月30日

3月

7日(金) 浜松医科学シンポジウム

第12回浜松医科学シンポジウムが行われ、学内若手研究者・技術職員が、ポスターセッションで研究内容を発表しました。



10日(月) 国際交流のつどい

日ごろからご支援いただいている国際交流事業関係者や地域住民の方々をお招きして、教職員、外国人留学生、研究者と共に親睦会を行いました。

12日(水) 入学者選抜試験

平成26年度浜松医科大学入学者選抜試験（後期日程）を実施しました。

17日(月) 学位記・修了証書授与式

平成25年度学位記・修了証書授与式を行い、医学部166名（医学科100名、看護学科66名）、大学院医学系研究科博士課程22名、修士課程11名および論文博士７名に学位記、助産学専攻科16名に修了証書を授与しました。

平成26年度　4月

2日(水)～12日(土) 新入生オリエンテーション

新入生オリエンテーション（ガイダンス、健康診断、合宿研修、情報リテラシー、福祉施設体験学習など）を実施しました。

7日(月) 入学式

平成26年度入学式が行われ、医学部184名（医学科115名、看護学科60名、看護学科第３年次（編入学）9名）、大学院医学系研究科博士課程33名、修士課程16名、および助産学専攻科16名が入学しました。

11日(金) Student Doctor称号付与式

医学科5年生118名にStudent Doctorの称号を付与しました。

21日(月) 図書館再整備完成式

大学の重点項目の一つとして、平成23年度から3ヵ年計画で進めてきた「学生の学習環境の整備」について、このほど図書館内の改修工事が終了し、図書館再整備完成式が行われました。

式典では、多数の教職員が見守る中、針山図書館長の挨拶、整備内容の説明、学長や教育と財務担当の各理事、図書館長によるテープカットが行われました。

この改修により、図書館内には静粛なスペースのほかに、ディスカッション可能な学習スペース「ラーニング・コモンズ」等が開設され、より学生が利用しやすい環境となっています。

5月

9日(金)～10日(土) 滋賀医科大学との交流会

本学において、第39回滋賀医科大学との交流会が開催されました。

講義実習棟１階特別講義室で開会式が行われ、滋賀医科大学よりの優勝杯返還、両大学長祝辞及び学生代表挨拶の後、開会宣言がありました。

両日とも晴天に恵まれ、野球、ハンドボール、テニスなど各競技において熱戦が繰り広げられました。

7勝7敗1引き分けで、最終結果は引き分けでした。これまでの通算成績は、14勝19敗6引き分けとなりました。

24日(土)～7月20日(日) 東海地区国立大学体育大会

8大学による第63回東海地区国立大学体育大会（主管校：岐阜大学）が行われました。

総合成績　男子７位、女子５位

優勝：空手道（女子）、弓道（男子）、弓道（女子）

３位：準硬式野球、硬式テニス（女子）、バトミントン（女子）

6月

4日(水) 知財セミナー

特許の基礎知識や、医学研究におけるラボノートの重要性と書き方、活用術について、職員を対象にセミナーを開催しました。

5日(木) サイエンスカフェ「Scienceのつどい」

総合人間科学講座（生物学）針山教授によるアフリカでの研究話や参加者の研究にまつわる話を交えた本学初のサイエンスカフェを、附属図書館ラーニング・コモンズで開催しました。

6日(金) 開学記念行事

６月７日の開学記念日にあわせて、開学記念行事を行いました。

学長挨拶

特別講演

浜松医科大学同窓会学術奨励賞授賞式

名誉教授称号授与式

瀧川雅浩（前財務・病院担当理事、前副学長）

中原大一郎（前総合人間科学講座教授）

野田明男（前総合人間科学講座教授）

佐藤清昭（前総合人間科学講座教授）

感謝状贈呈式

附属病院ボランティア（5名）

9日(月)～20日(金) 授業開放

県内の高校生を対象に、平成26年度専門基礎科目等授業開放を実施しました。（参加者延べ392名）

19日(木) 環境整備

構内草刈りを行い、体育系・文化系サークルから122名の学生が参加しました。

7月

18日(金) 病院サマーコンサート

学生管弦楽団によるコンサートが行われ、患者さんやご家族などが来場されました。

19日(土)～8月9日(土) 公開講座（7/19、8/2、8/9）

「医療における最新の話題」をテーマに、第36回公開講座を開催しました。県内外から137名、延べ294名の方が受講されました。

25日(金) 浜松医科学シンポジウム

多目的ホールにおいて、第13回浜松医科学シンポジウムを行いました。

25日(金)～8月18日(月) 富士山衛生センターの診療補助

富士山８合目に夏季期間中開設される富士山衛生センターにて医師7名および、医学科４年生近藤浩幹さんほか学生６名が登山者の医療救援活動に協力しました。

30日(水)・8月6日(水) オープンキャンパス

医学科と看護学科のオープンキャンパス（大学説明会）を行いました。全国から延べ688人の高校生が参加し、カリキュラムの特徴、入学者選抜方法の説明、模擬授業、在学生・卒業生の講演、個別相談などが行われました。

31日(木)～8月19日(火) 西日本医科学生総合体育大会

第66回西日本医科学生総合体育大会（代表主管校：金沢大学医学部）が行われ、44大学が参加しました。

総合成績６位

優勝：空手（女子）

２位：弓道（男子）

３位：卓球（男子）

8月

1日(金) 高校生１日ナース体験

市内の高校生28人が「１日ナース体験事業」に参加しました。高校生は看護師のユニフォームに着替え入院患者の食事、着替えの介助などを行いました。

6日(水) こころざし育成セミナー

医学部進学を目指す県内の高校１・２年生約70名が「こころざし育成セミナー」に参加しました。今野病院長のあいさつの後、本学の3名の講師が、仕事の内容や医療の現状について説明しました。

7日(木)～9日(土) 高校生のための先進的科学技術体験合宿プログラム「サマーサイエンスキャンプ」

全国から高校生12名がサマーサイエンスキャンプに参加しました。実際に研究で用いられている先端機器を高校生自らの手で操作し、実験に参加しました。

19日(火)～20日(水) 高大連携の実習プロジェクト「ミクロの世界の不思議」

静岡県立磐田南高等学校理数科2年生の6名が高大連携の実習プロジェクトに参加しました。高校生たちは、模擬授業や施設見学、再生・感染病理学講座で行われる各種の実験に参加しました。

9月

25日(木) 慶北―浜松合同医学シンポジウム

第14回慶北―浜松合同医学シンポジウムが本学で開催されました。

29日(月) 学位記・修了証書授与式

大学院医学系研究科博士課程４名に学位記を授与しました。

サークル紹介

打開!男子硬式テニス部!

看護学科３年　**塩澤 幸史**

　こんにちは、浜松医科大学男子硬式テニス部です。僕たち男子硬式テニス部は、前期は火曜日・木曜日・土曜日の週３回、後期は木曜日・土曜日の週２回部活を行っています。また、テスト期間中は部活がオフになります。なので、文武両道を目指している人も大歓迎の部活です。実際、テストで上位の成績を残している部員はたくさんいます。現在部員の数は20人程度で少人数ではありますが、全員でメリハリを持って活動しています。部員の中には大学に入学してから硬式テニスを始めた者もいます。僕自身も軟式テニスの経験はありましたが、硬式テニスの経験はありませんでした。しかし、たくさんの良き先輩や同級生に優しく丁寧に教えていただき、この３年間でテニスを上達させ、楽しむことができました。

2013年　西日本医科学生総合体育大会　3回戦進出!!

　僕が硬式テニス部に入部した理由はテニスが好きだったということはもちろんですが、先輩方の人柄の良さが大きなきっかけになっています。入部前の新歓期間中、硬式テニス部の先輩方にはとても優しくしていただき、また、こんなに面白い先輩方がいる部活は他にないと思いました。今思い出してもとても楽しい時間を過ごすことができたと強く感じます。入部後も、部活動の時間以外でも学内で会えば笑顔で話しかけてくださったり、僕が部活や学校生活で悩んでいた時には相談にのっていただき、的確なアドバイスをしていただいたりと、その人柄の良さは変わらず、入部して良かったと思いました。

　その人柄の良さゆえに硬式テニス部は良い意味で先輩と後輩の距離が近く、部活動がない日や朝、授業のない時間には５面あるテニスコートが全て埋まってしまうほど、先輩後輩関係なくテニスの自主練習を行っている姿が毎日のように見られます。先輩との練習は部活動の時間だけでは練習できないような、細かいことも教えていただけるのでとてもためになります。

　僕が浜松医科大学の硬式テニス部が素晴らしい部活だなと思うことは、テニスの試合はもちろんのこと、応援や審判やボーラーなどの試合以外の様々な面においても相手より上を目指すというチームの姿勢です。応援では相手よりも気持ちを込めた大きな声で、審判ではミスなくきちんと、ボーラーでは相手よりも走ってボールを追う。相手に勝つということは、単にテニスで勝つということではなく、このような様々な面においても相手より勝ることが真の勝利であるということを、部活動を通して学ぶことができました。それ故に時には練習がつらく、厳しいこともありますが、部員一人一人が力を出し切り、チーム一丸となって勝利を手にするときのあの興奮や気持ちは忘れられず、またかけがえのないものでもあります。

サーブを打つ部員

　浜松医科大学の男子硬式テニス部を通して、部活においてテニス以外にも多くのことを学びました。その学んだことをこれから先、看護師になるにあたって生かしていくことができたら良いと思いました。

　浜松医科大学の男子硬式テニス部に興味がある方はまずは、練習風景や試合の様子を見に気軽にテニスコートに足を運んでください。

サークル紹介

ボランティアサークル 四ツ葉

医学科４年　**濱本 希**

　こんにちは、浜松医科大学ボランティアサークルの四ツ葉です。四ツ葉は昭和54年に設立された団体で、現在、あひるの会、清明寮、集まる会、筋ジス会、天竜病院ボランティア大きく５つの活動をしています。

　「あひるの会」は、自閉症などの精神疾患を持つお子さんとそのご家族から成り立つ会です。月一回行われるイチゴ狩りやピクニック、バーベキューなどの活動の手伝いをしています。

　「清明寮」では、毎週火曜日に清明寮という児童養護施設で暮らす小中学生に勉強を教える活動をしています。家庭教師をしながら子供の話を聴いてコミュニケーションを取ることも大切な活動です。

　「集まる会」では、年４回車椅子の介助をしながら買い物や動物園などに一緒に出かける活動をしています。

　「筋ジス会」では、浜松筋ジストロフィー会の行事に一緒に参加し、患者さんとそのご家族、他のボランティアの方の手伝いをするという活動をしています。

　「天竜病院ボランティア」は、平成24年9月より始められた5つの中で最も新しい活動です。毎週水、金曜日の夕方に、学生2名ずつが天竜病院の5病棟（児童精神科）へ行き、そこに入院する子供たちの学習支援をした後一緒に遊んだりお話ししたりする活動をしています。私自身も当初よりこの活動に参加しており、昨年度は代表を務めさせていただきました。活動当初は子供たちにどのように接したらよいか距離感がつかめず、戸惑うことも多かったですが、今では学生が来ることで子供たちが積極的に自習するきっかけになるなどやりがいを感じることが増えました。1日2時間、週2日でできることは限られていますが、その2時間が子供たちにとって少しでも楽しい時間となるよう自分自身も楽しみながら活動するようにしています。

　また、毎年11月に行われる浜松医科大学の医大祭では、バザーを開催しています。知的障がい者の生活介護・就労継続支援施設である「かがやき」、発達障害の方の日中一時支援事業である「あじさい」、「あひるの会」などが出品してくださる商品を販売しています。四ツ葉の分の売り上げは、地元の福祉施設に寄付しています。

　私自身4年間四ツ葉の活動に参加している中で感じたのは、四ツ葉の活動は、ボランティアをしているというより、一緒に遊びに行ったり勉強を教えたりし、学生自身もその活動を楽しむことで、会の方々に楽しい時間を過ごしていただくことが大きな割合を占めているということです。ボランティアというと何か難しいことを行わなければいけない気がしてしまいますが、自分にできることは何かを考え、車いすの介助や学習支援をしながら会話を楽しみ、目の前にいる人と楽しい時間を共有することもまた一つのボランティアだと感じました。何度も参加する中で会の方とも顔見知りになれ、より活動を楽しむことができるのも四ツ葉の魅力だと思います。

　平成25年度には浜松市善行奨励賞をいただくなど、四ツ葉は設立当初より多くの賞を受賞してきました。これからも細く長く活動を続け、今まで四ツ葉が会の方々と築いてきた関係を大切にしていきたいと思います。

2014年8月　「清明寮」の納涼祭に参加した学生

2014年7月　「あひるの会」の料理教室でのカレー作り

サークル活動の記録

平成25年4月1日～平成26年3月31日

準硬式野球部	■東海地区国立大学体育大会　３位
男子硬式庭球部	■東海医歯薬学生大会１部　６位
女子硬式庭球部	■東海地区国立大学体育大会　３位 ■東海医歯薬学生大会　優勝
ソフトテニス部	■春季東海医歯薬学生大会 個人 ３位、 団体 ベスト４ ■秋季東海医歯薬学生大会　団体 ベスト８
女子バスケットボール部	■春季東海医歯薬学生バスケットボール大会 ベスト８ ■西日本医科学生総合体育大会　ベスト１６
男子バレーボール部	■近畿医療系大会　３位 ■東海リーグ　優勝
バドミントン部	■西日本医学生バドミントン大会　男子ダブルス　優勝 ■東海医歯薬学生バドミントン大会 男子シングルス 優勝 男子ダブルス　優勝 ■東海地区国立大学体育大会　女子　優勝 ■近畿東海医歯薬学生バドミントン大会 男子シングルス　３位 男子ダブルス　準優勝
ヨット部	■西日本医科学生総合体育大会 スナイプ級　１１位 ４７０級　８位 ■コメディカルレース スナイプ級　２３位、２４位 ４７０級　９位、１２位
漕艇部	■西日本医科学生総合体育大会　総合　準優勝 ■朝日レガッタ　男子舵手付フォア　３位 ■中部学生選手権　男子舵手付フォア　３位
ゴルフ部	■西日本医科学生総合体育大会 男子団体１１位 女子個人４位
弓道部	■中部ブロック医科学生弓道大会 男子団体　優勝、個人　準優勝、３位、４位 女子団体　優勝、個人　優勝 ■東海地区国立大学体育大会 男子団体　優勝、個人　優勝 女子団体　３位 ■静岡県下学生弓道選手権夏季大会 男子団体　優勝、個人　準優勝、４位 女子個人　４位 ■西日本医科学生総合体育大会 男子団体　優勝 女子団体　優勝、個人　４位 ■全日本医科学生体育大会王座決定戦 団体　優勝、個人　優勝、３位、７位
陸上競技部	■東海地区国立大学陸上競技大会 男子　１００ｍ　準優勝、２００ｍ　優勝、 ハンマー投げ　３位 ■関西医科学生対校陸上競技選手権大会 男子　４００ｍハードル　優勝、砲丸投げ　準優勝、 やり投げ　３位 女子　走り幅跳び　準優勝、走り高跳び　３位 ■西日本学生陸上競技対抗選手権大会 男子　２００ｍ　８位 ■西日本医科学生総合体育大会 男子　１００ｍ　優勝、４００ｍハードル　３位、 棒高跳び　３位、砲丸投げ　準優勝、 ハンマー投げ　優勝 女子　ハンマー投げ　優勝 ■関西医歯薬科学生対抗陸上競技会 男子　４００ｍハードル　優勝、砲丸投げ　３位 女子　走り高跳び　３位、やり投げ　３位
水泳部	■西日本医科学生総合体育大会 男子総合５位 女子総合準優勝
卓球部	■西日本医科学生総合体育大会 女子　団体戦　ベスト８、個人戦ダブルス　ベスト１６ ■東海医歯薬学生大会 男子　個人戦シングルス　ベスト１６
四ツ葉	■天竜厚生会清明寮での学習支援ボランティア ■浜松筋ジストロフィーの会への参加 ■発達障害をかかえる子供を持つ方の会「あひるの会」との交流 ■車イスの方の会「集まる会」との交流、車イス介助 ■天竜病院児童精神科でのボランティア
管弦楽団	■第３３回定期演奏会（アクトシティ浜松 中ホール） ■本学附属病院、日赤病院及び遠州病院でのサマーコンサート及びクリスマスコンサート ■本学入学式、学位記授与式、解剖体慰霊祭における演奏 ■医大祭での演奏会
写真部	■東海地区国立大学文化祭への出展 ■本学附属病院での写真の展示
災害支援サークル Ｌｕｃｅ	■釜石保育園ボランティア ■南三陸町ボランティア ■災害ステップアップフォーラム開催

留学生紹介

日出る国へと続く道

大学院医学系研究科（博士課程）2年　**ブチハン**

大学院医学系研究科（博士課程）2年生
解剖学講座（細胞生物学分野）

Vu Thi Hang
ベトナム ハノイ出身

研究テーマ、研究成果を教えて下さい

私は浜松医科大学に入学してから、微小管翻訳後修飾と神経変性に関する研究に取り組んでいました。その後、抗体を操作し、翻訳後修飾の新しいイメージング法開発に取り組み、現在は新規翻訳後修飾の発見、抗体操作による神経変性の可視化について研究しています。

これらの研究成果が米国の生化学系雑誌Journal of Biological Chemistry に論文として掲載されました。また第64回日本細胞生物学会・第45回日本発生生物学会合同大会において、研究成果を発表しました。今後もこれらの研究をさらに発展させていきたいと思います。

日本に来るまで何を勉強していましたか？

私はベトナムのハノイから東南へ75kmに位置するナムディン出身で、高校までそこで勉強しました。その後、ハノイの大学でトレハラーゼの合成、精製、活性測定など、一連の生化学的解析について学びました。大学の時、ベトナムでは最新技術を用いて研究ができないことを知り、海外に留学したいと考えました。そのため大学では、専門的な知識をしっかり学ぶことと並行して、英語の学習にも力を入れていました。

出身地（地域）はどんな様子ですか？

ベトナムでは現在インフラも教育もまだ十分に整備されていません。特に、教育設備が不足しており、実験できる施設が少ししかありません。そのため、最新技術に関する研究があまり進んでいません。教育機関においては、成績を重視するあまり、学生の創造力を十分に発揮する場がないという問題が残っていると思います。

そのため、私は良い教育環境の中で研究をしながら、ベトナムの教育の改善方法も学びたいと考え、日本に留学しました。

浜松医科大学に来たきっかけ

私は子供のことからドラえもん、ちびまる子ちゃんなどの日本の漫画を通して日本のことを好きになりました。いつか日本に行ってみたいとずっと子供の頃から思っていました。そして、大学で生化学的解析について学んで、細胞生物学に興味を持ち、海外でもっと研究したいと思いました。日本は先進国であり、研究も非常に進んでいることを知っていたので、子供の頃からずっと行きたかった日本に留学したいと考え始めました。

そこで、留学先を調べてみたら、浜松医科大学の瀬藤先生の研究室では質量分析イメージング技術をはじめ細胞生物学についての研究が非常に進んでおり、英語で研究することも可能ということが分かったため、私は先生と連絡を取り、浜松医科大学に来ました。浜松に来てから３年目が経ち、研究者として、人として非常に成長できたと感じており、本当に瀬藤先生の研究室に入って、浜松医科大学に来てよかったと思います。

浜松での生活はどうですか？

浜松は、静かなところで、気候も温暖で、住みやすいところだと思います。日本に来たばかりのころ、日本語を知らない私は生活と研究になかなか慣れず大変でしたが研究室の先生方、大学と友達のサポートのおかげで、研究も生活も慣れてきました。

現在、研究と文化交流を両立して充実した生活を送っています。時々、買い物が少し不便だと感じますが、浜松に来てよかったと思っています。

将来の夢はなんですか？

私は、将来細胞生物学の研究者になりたいです。博士課程を終了後、経験を積みたいので、ポスドクとして日本で働いてから、帰国してベトナムの大学の教授になるつもりです。ベトナムで大学の教授になることによって、細胞生物学の研究者として貢献もできますし、また日本で学んだことをベトナムの学生たちに教えることができます。私は日本で留学して研究した経験を生かして、ベトナムと日本の「文化」だけでなく「技術・研究」の懸け橋になりたいと思います。

最後に

私は、浜松医科大学に来て本当に良かったと思います。瀬藤先生の研究室で最新の技術を学び、様々な技術を習得することができただけでなく、先生方にご指導いただき、一人の研究者として成長することができました。

浜松医科大学をはじめ日本には、研究をする上で非常に恵まれた環境があると思います。留学を検討されている方は、ぜひ来てください。

学会賞等受賞

賞の名称	受賞者		受賞年月日	受賞内容（研究題目）
	所属・職名	氏　名		
第21回日本精神科救急学会　奨励賞	精神科神経科　助教	栗田 大輔	H26.2.14	精神科医でも実践可能な神経性無食欲症身体管理マニュアルの開発
日本内科学会東海地方会 優秀演題賞	麻酔科蘇生科　医員	森下 佳穂	H26.2.23	繰り返す意識障害がシベンゾリン負荷試験で低血糖発作と確定診断できた1例
日本静脈学会 YIA賞　（Young Investigator Awards）	第二外科　医員	佐野 真規	H26.3.10	永久型下大静脈フィルターの破損状況の検討 ーTrapEaseフィルターとGreenfieldフィルターの比較ー
日本薬学会　佐藤記念国内賞	薬剤部　教授 薬剤部長	川上 純一	H26.3.28	医療現場における薬物治療の安全性確保を目指した臨床薬理学・薬剤疫学研究
日本産科婦人科学会第66回学術講演会 優秀演題賞	産婦人科学講座　助教	田村 直顕	H26.4.20	臨床的羊水塞栓症の子宮体部筋層の病理組織学的検討
日本静脈学会『静脈学』 ２０１３年優秀論文	第二外科　医員	佐野 真規	H26.5.23	永久型下大静脈フィルターの破損状況の検討 ーTrapEaseフィルターとGreenfieldフィルターの比較ー
WONCA Asia Pacific Regional Conference 2014, Best Poster Prize	地域家庭医療学講座 特任教授	井上 真智子	H26.5.24	Characteristics of the Japanese Physicians on Remote Islands – What Affects Their Willingness to Stay?
第62回輸血細胞治療学会総会 優秀演題賞	輸血・細胞治療部長 病院教授	竹下 明裕	H26.7.3	優秀演題賞 （高校生に対する献血に関する意識調査：第1次調査結果と方向性）
日本薬学会東海支部　学術奨励賞	薬剤部　薬剤主任	見野 靖晃	H26.7.5	自己免疫疾患患者における免疫抑制療法と感染予防法の最適化
第46回医学教育学会大会 学生ポスターセッション　優秀演題賞	医学科2年 （人間科学ゼミナール 大磯ゼミ）	寺澤 美晴、小野田 有希、 岸 由梨、津崎 江美、 大野 航、新貝 龍太郎、 鈴木 堯大、高木 啓伍、 南條 宏太、本間 侑、森 亘平	H26.7.19	多角的な意識調査から見た求められる女性医師像の模索

医学科２年生が第46回日本医学教育学会大会優秀演題賞を受賞

このたび、私達大磯ゼミが行った「多角的な意識調査から見た求められる女性医師像の模索」という研究が、第46回医学教育学会の学生ポスターセッションにおいて、優秀演題賞に選ばれたことを大変嬉しく思っております。

本研究では、近年、女性の担う役割が重要となってきていることから、その活躍の場の拡大に対応するため、市民、医学生、医師の3群間で女性医師に関する意識調査を行い、将来の医療を担う医学生の今後の指針を模索しました。

統計解析の結果、医学生の回答は医師と市民の中間であることが明らかになりました。このことから、医学生は低学年からの早期病院実習や地域のイベントへの参加等、双方の懸け橋としての活躍・成長の場を確保していくことにより、現在・未来の医療に大いに貢献していけると考えました。

本研究では、大磯義一郎教授のご指導のもと11名のゼミ生で力を合わせ、浜松駅前での街頭調査や附属病院の医師の前でのプレゼンテーションを経て、約700名の方からアンケート調査を行いました。慣れない作業を行うことが多く、不安な場面もありましたが、たくさんの方々の協力のおかげでこのような賞をいただけました。協力していただいた皆様に心から感謝申し上げるとともに、本研究結果を踏まえ、自分たちの目指す医師に近づけるように今後とも努力していきたいと思います。

医学科２年　寺澤 美晴

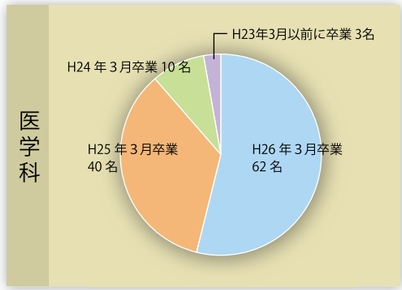
平成26年度入学者選抜試験実施状況

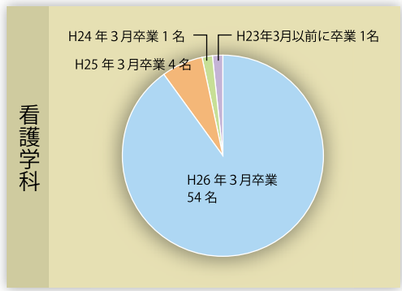
入学者選抜試験実施状況

学科名	区分〔募集人員〕	志願者数	第１段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医学科	前期日程　〔75〕	449 (180)	—	376 (150)	75 (25)	2 (2)	0 (0)	73 (23)
	後期日程　〔10〕	211 (90)	150 (66)	53 (29)	10 (4)	1 (0)	1 (1)	10 (5)
	推薦入試　〔30〕	83 (38)	—	83 (38)	32 (14)	0 (0)	0 (0)	32 (14)
	帰国子女　〔若干名〕	4 (1)	—	3 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	私費外国人〔若干名〕	0 (0)	—	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合　計　〔115〕	747 (309)	—	515 (218)	117 (43)	3 (2)	1 (1)	115 (42)
	2年次編入学　〔5〕	76 (26)	39 (8)	33 (8)	5 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (1)
看護学科	前期日程　〔35〕	75 (70)	—	72 (67)	35 (33)	6 (5)	7 (5)	36 (33)
	推薦入試　〔25〕	62 (60)	—	62 (60)	23 (22)	0 (0)	0 (0)	23 (22)
	帰国子女　〔若干名〕	1 (1)	—	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	社会人　〔若干名〕	3 (2)	—	3 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	合　計　〔60〕	141 (133)	—	138 (130)	60 (57)	7 (6)	7 (5)	60 (56)
	3年次編入学　〔10〕	13 (12)	—	12 (11)	10 (9)	3 (3)	2 (2)	9 (8)
助産学専攻科	合　計　〔16〕	50 (50)	—	46 (46)	16 (16)	2 (2)	2 (2)	16 (16)

（　）内数字は、内数で女子を示す。

入学者選抜に係る高等学校等卒業年別状況





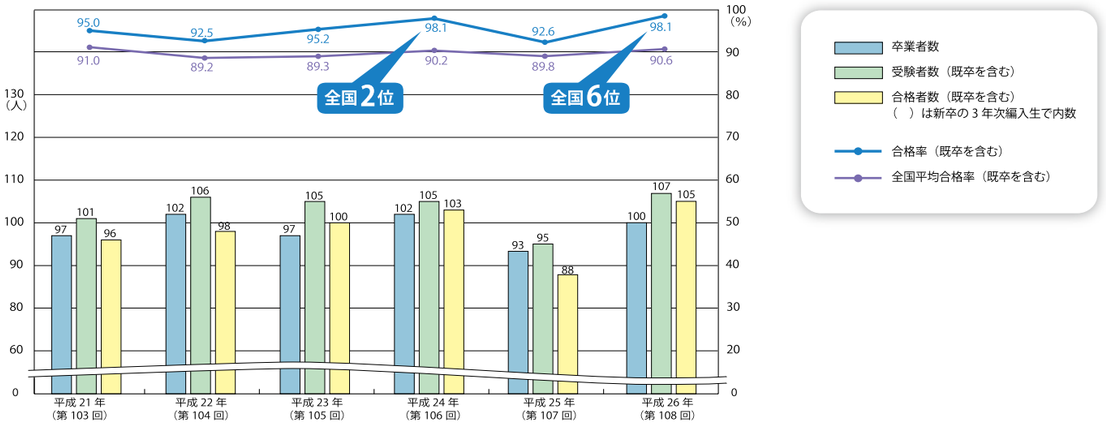
入学者選抜出身高等学校所在地別入学者数内訳

都道府県	医学科	看護学科	合　計
北海道		1 (1)	1 (1)
秋田県	1 (1)		1 (1)
群馬県		1 (1)	1 (1)
埼玉県	2 (0)		2 (0)
東京都	6 (3)	1 (1)	7 (4)
神奈川県	4 (2)		4 (2)
新潟県	2 (0)	2 (2)	4 (2)
石川県	1 (0)		1 (0)
長野県	1 (0)	1 (1)	2 (1)
岐阜県	3 (1)	1 (1)	4 (2)
静岡県	71 (25)	40 (37)	111 (62)
愛知県	20 (8)	11 (10)	31 (18)
京都府	2 (1)		2 (1)
和歌山県	1 (1)		1 (1)
岡山県	1 (0)		1 (0)
愛媛県		1 (1)	1 (1)
沖縄県		1 (1)	1 (1)
総　計	115 (42)	60 (56)	175 (98)

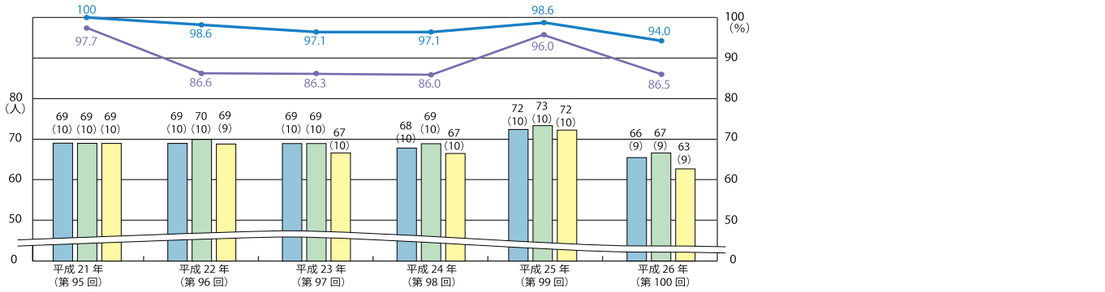
（　）内数字は、内数で女子を示す。

国家試験合格状況

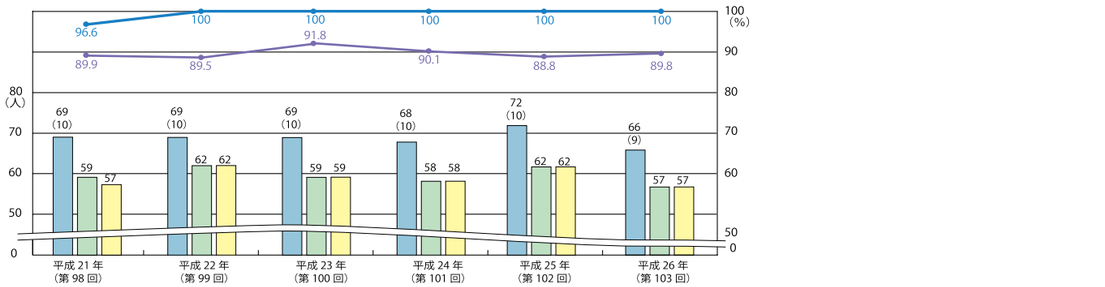
医師国家試験合格状況（医学科卒業者）



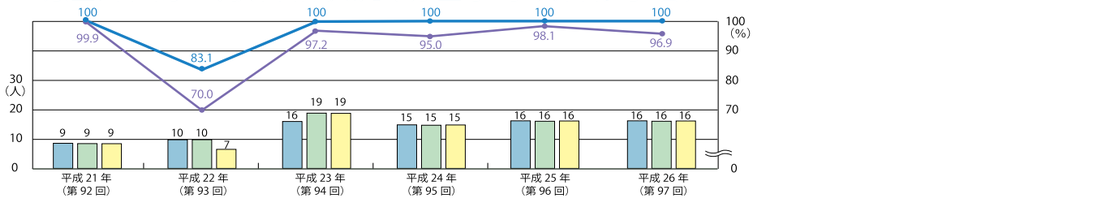
保健師国家試験合格状況（看護学科卒業者）



看護師国家試験合格状況（看護学科卒業者）



助産師国家試験合格状況（助産学専攻科修了者）



第108回医師国家試験大学別合格状況

順位	学　校　名	受験者数（既卒を含む）	合格者数（既卒を含む）	合格率（既卒を含む）
1	自治医科大学	108	107	99.1%
2	筑波大学医学専門学群	97	96	99.0%
3	福島県立医科大学	93	92	98.9%
3	順天堂大学医学部	92	91	98.9%
5	防衛医科大学校	70	69	98.6%
6	浜松医科大学	107	105	98.1%
7	東京医科歯科大学医学部	91	89	97.8%
8	大阪市立大学医学部	88	86	97.7%
9	横浜市立大学医学部	79	77	97.5%
10	藤田保健衛生大学医学部	104	101	97.1%
11	山梨大学医学部	95	92	96.8%
11	産業医科大学	94	91	96.8%
13	東京医科大学	118	114	96.6%
14	名古屋市立大学医学部	80	77	96.3%
14	日本医科大学	107	103	96.3%
16	佐賀大学医学部	93	89	95.7%
17	兵庫医科大学	114	109	95.6%
18	札幌医科大学	111	106	95.5%
19	千葉大学医学部	107	102	95.3%
19	東京慈恵会医科大学	107	102	95.3%
21	山形大学医学部	104	99	95.2%
22	三重大学医学部	119	113	95.0%
23	京都府立医科大学	99	93	93.9%
24	北里大学医学部	112	105	93.8%
25	広島大学医学部	110	103	93.6%
25	慶應義塾大学医学部	109	102	93.6%
27	鳥取大学医学部	92	86	93.5%
27	埼玉医科大学	108	101	93.5%
29	岐阜大学医学部	91	85	93.4%
30	琉球大学医学部	105	98	93.3%
31	弘前大学医学部	117	109	93.2%
32	東北大学医学部	111	103	92.8%
32	和歌山県立医科大学	83	77	92.8%
34	秋田大学医学部	124	115	92.7%
35	奈良県立医科大学	102	94	92.2%
36	昭和大学医学部	126	116	92.1%
37	滋賀医科大学	105	96	91.4%
37	神戸大学医学部	105	96	91.4%
39	旭川医科大学	103	94	91.3%
39	福井大学医学部	104	95	91.3%
39	大分大学医学部	104	95	91.3%

順位	学　校　名	受験者数（既卒を含む）	合格者数（既卒を含む）	合格率（既卒を含む）
42	長崎大学医学部	111	101	91.0%
43	東京女子医科大学	109	99	90.8%
44	新潟大学医学部	107	97	90.7%
44	金沢大学医学部	108	98	90.7%
46	岡山大学医学部	113	102	90.3%
46	愛知医科大学	113	102	90.3%
48	東京大学医学部	112	101	90.2%
48	京都大学医学部	123	111	90.2%
50	北海道大学医学部	101	91	90.1%
50	熊本大学医学部	121	109	90.1%
52	東邦大学医学部	109	98	89.9%
52	聖マリアンナ医科大学	119	107	89.9%
54	名古屋大学医学部	108	97	89.8%
54	日本大学医学部	108	97	89.8%
56	山口大学医学部	105	94	89.5%
56	東海大学医学部	114	102	89.5%
56	金沢医科大学	133	119	89.5%
59	大阪大学医学部	112	100	89.3%
59	鹿児島大学医学部	112	100	89.3%
61	群馬大学医学部	110	98	89.1%
61	島根大学医学部	101	90	89.1%
63	信州大学医学部	109	97	89.0%
64	香川大学医学部	99	88	88.9%
65	川崎医科大学	121	107	88.4%
66	岩手医科大学	103	91	88.3%
67	愛媛大学医学部	110	97	88.2%
68	九州大学医学部	100	88	88.0%
69	獨協医科大学	116	102	87.9%
70	宮崎大学医学部	104	91	87.5%
71	徳島大学医学部	110	96	87.3%
72	久留米大学医学部	109	95	87.2%
73	高知大学医学部	121	105	86.8%
74	関西医科大学	112	97	86.6%
75	杏林大学医学部	96	83	86.5%
76	富山大学医学部	100	85	85.0%
77	大阪医科大学	110	93	84.5%
78	福岡大学医学部	123	101	82.1%
79	近畿大学医学部	116	87	75.0%
80	帝京大学医学部	128	83	64.8%
81	認定及び予備試験	108	48	44.4%
	総　合　計	8,632	7,820	90.6%

平成25年度卒業者・修了者の進路状況

医学科卒業者進路状況　　卒業者100人

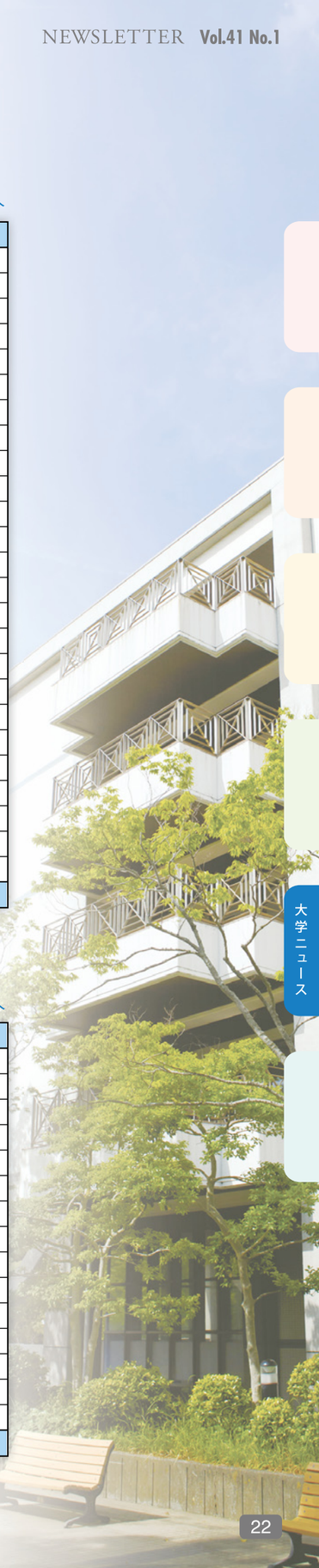
就職先等	人　数	内　　訳	(人)
本学附属病院	14	浜松医科大学医学部附属病院	14
国立大学附属病院	8	東京医科歯科大学医学部附属病院	3
		名古屋大学医学部附属病院	1
		京都大学医学部附属病院	1
		千葉大学医学部附属病院	1
		広島大学病院	1
		東京大学医学部附属病院	1
公立大学病院	3	横浜市立大学附属病院	2
		横浜市立大学附属市民総合医療センター	1
私立大学病院	4	順天堂大学医学部附属浦安病院	1
		順天堂大学医学部附属順天堂医院	1
		東京女子医科大学東医療センター	1
		東京歯科大学市川総合病院	1
国立病院	4	国立病院機構相模原病院	2
		国立国際医療研究センター	2
公立病院	42	磐田市立総合病院	10
		静岡県立総合病院	7
		浜松医療センター	5
		静岡市立静岡病院	3
		市立島田市民病院	3
		藤枝市立総合病院	3
		東京厚生年金病院	2
		日本海総合病院	1
		藤沢市民病院	1
		東京都保健医療公社豊島病院	1
		東京都立墨東病院	1
		焼津市立総合病院	1
		山梨県立中央病院	1
		公立昭和病院	1
		船橋市立医療センター	1
		春日井市民病院	1
その他病院	24	JA静岡厚生連　遠州病院	3
		刈谷豊田総合病院	2
		上尾中央総合病院	2
		静岡赤十字病院	2
		聖隷浜松病院	2
		京都第二赤十字病院	2
		豊田厚生病院	2
		NTT東日本関東病院	1
		総合犬山中央病院	1
		諏訪赤十字病院	1
		聖隷横浜病院	1
		東京警察病院	1
		国家公務員共済組合連合会名城病院	1
		沖縄徳洲会　南部徳洲会病院	1
		総合東京病院	1
		第二岡本総合病院	1
国家試験不合格	1		1
合　　計			100

看護学科卒業者進路状況　　卒業者66人

就職先等	人　数	内　　訳	(人)
本学附属病院	27	浜松医科大学医学部附属病院	27
国立大学附属病院	1	東京大学医科学研究所附属病院	1
公立大学病院	2	名古屋市立大学病院	2
私立大学病院	2	順天堂大学医学部附属静岡病院	1
		東海大学医学部付属病院	1
国立病院	3	国立病院機構天竜病院	2
		国立病院機構豊橋医療センター	1
公立病院	16	静岡市立静岡病院	5
		磐田市立総合病院	4
		静岡県立総合病院	3
		藤枝市立総合病院	2
		浜松医療センター	1
		諏訪中央病院	1
その他病院等	9	静岡赤十字病院	3
		聖隷三方原病院	2
		聖路加国際病院	1
		刈谷豊田総合病院	1
		NTT東日本伊豆病院	1
		レッツ機能訓練センター浜松中央	1
国・県・市・健診センター	4	浜松市保健師	1
		豊橋技術科学大学保健管理センター保健師	1
		御前崎市役所保健師	1
		湖西市立鷲津保育園看護師	1
進学	1	浜松医科大学助産学専攻科	1
未定	1		1
合　　計			66

助産学専攻科修了者進路状況　　修了者16人

就職先等	人　数	内　　訳	(人)
本学附属病院	1	浜松医科大学医学部附属病院	1
国立大学附属病院	1	山梨大学医学部附属病院	1
私立大学病院	1	順天堂大学医学部附属順天堂医院	1
国立病院	2	国立国際医療研究センター病院	1
		国立病院機構金沢医療センター	1
公立病院	2	浜松医療センター	2
その他病院	9	聖隷三方原病院	1
		医療法人葵鐘会ロイヤルベルクリニック	1
		JA愛知厚生連安城更生病院	1
		葛飾赤十字病院	1
		関東労災病院	1
		国際親善総合病院	1
		友愛会豊美城中央病院	1
		千葉メディカルセンター	1
		名古屋第一赤十字病院	1
合　　計			16



患者さん中心の医療を求めて

～急性期から在宅医療へ～

医学科25期生（平成16年3月卒業）　**大島 恵**

みなさん、はじめまして。私は2004年に浜松医科大学を卒業して、11年目となる現在は東京都世田谷区にある訪問診療を中心とした松原アーバンクリニックで働いています。診療の対象は通院が困難な慢性疾患の方や高齢者、癌患者さんが中心で、また入院病床もあるため、ご家族の休養などを目的とした短期入院や急性期から在宅へつなぐ調整入院、入院での癌患者さんの看取りも行っています。

私が医師になったのは初期研修医制度が導入された初年度でした。一般的な疾患を幅広く経験するため、急性期の市中病院で初期研修を2年間、その後済生会宇都宮病院で内科と救急を中心に2年間の後期研修を行いました。軽症から重症まで数多くの症例を担当し、基本的な手技や知識、緊急性の判断を身につけるなど、この4年間はとても貴重な時間となりました。その後5年間は急性期と回復期のリハビリ医として働き、脳卒中や脊髄疾患による麻痺や嚥下障害、整形疾患などに対するリハビリを学びました。リハビリは疾患名ではなく障害に対してアプローチをする患者さん中心の医療です。障害と残された能力を的確に診断しリハビリを行い、足りない部分は患者さんのニーズに応じて環境設定をして補います。回復期リハで障害を持つ方の退院調整などを行ううちに、退院後の患者さん達の経過に興味がわき、在宅医療の世界に飛び込むことになりました。

在宅医としてまだ日が浅く現状の私の印象ですが、在宅医療は医学知識だけではなく人間性が問われる医療だと実感しています。例えばご高齢の患者さんの加齢性の嚥下機能低下は医療者としてどの科でもよく遭遇すると思いますが、在宅では肺炎を発症した場合、肺炎の治療をする一方で、急性期の病院に入院するか在宅でみるか、嚥下機能の評価を行い食べ方や内容に配慮しながら食べるか、胃瘻を作るか、など色々な選択肢があります。日々の関わりの中で本人やご家族と価値観を共有することにより、治療に加え、病態に対する医療的知識や一歩先を見据えた予測しうる経過を説明し、患者さんを中心にできるだけ良い選択ができるよう心がけています。一方、癌患者さんの場合は、介入時には元気な場合もありますが、予後は数カ月から数日と短期戦のことも多く、密度の濃い時間を共にすることになります。ターミナルケアとして癌性疼痛のコントロールなどの身体の症状に対する治療を行うのと同時に、本人、ご家族に対して、死に向かう過程の説明や受け入れの準備をするという精神的なケアも行います。担癌患者では特にチーム医療が重要で、病棟では看護師、在宅では訪問看護師やケアマネなどと連携を密にとり、穏やかに最期の時を迎えられるようサポートをします。

在宅医療というと24時間365日の対応が求められ、突然の呼び出しがある急性期の病院に比べてもそのプレッシャーは負けず劣らずです。松原アーバンクリニックでは常勤医師の間で電話当番を交互に行ない、完全フリーな時間が確保されます。また私は現在育児中ですが、育児休暇明けは時短や電話当番の免除をする、など柔軟に対応いただいています。これからも家庭と両立しながらも、多くの患者さんやご家族としっかりと向き合った医療を行っていきたいです。

むかって一番左が著者。クリニックの前で往診医、看護師、事務などのスタッフと。（白衣は往診時にも着用しません。）

出産をサポートできる助産師へ

～産婦さん主体のお産を目指して～

看護学科12期生（平成22年3月卒業）　**島 典子**

「分娩室入ります!!」緊張するけど楽しめる瞬間。

「おめでとうございます!!○時○分です!!」私は今日も出産の感動と幸せをもらいます。

物心ついた頃から「看護師になりたい」という夢を周囲に話していた私。その夢をかなえるために、2006年浜松医科大学の看護学科に入学しました。看護師になりたいと考えていた私が、助産師になりたいと思ったのは大学2年の 時、母性の授業で助産師という職業を知り興味を持ったことがきっかけです。それまでは、看護師として病気を抱える方を看護したい、という考えでした。それが、人のお産という大きなライフイベントに関わり、誕生の喜びを分かち合いたい、という考えになりました。

今では、浜松医大の産科病棟で働いて5年目になります。そして、とり上げた赤ちゃんは130人以上になりました。浜松医大の分娩件数は昨年700件を越え、年々増加傾向にあり、多忙な日々です。

新生児室で検温をしています。

私には助産師として意識していることがあります。「お母さんと赤ちゃん、その家族が頑張っているのをサポートする役割でありたい」ということです。産婦主体のお産を陰ながら支えることができる助産師になりたいと思っています。ただ、助産師としてリードすることも必要だなと感じることは多々あります。たとえば、陣痛で痛くて動けないというお母さん、何としてでも分娩室に行ってもらうよう半ば強引に誘導します。赤ちゃんが出てくるのを手助けするいきみがうまくできないお母さん、呼吸法やいきみ方を説明し誘導します。リードはしても助産師主体・主役にはならないよう心がけます。うまくコミュニケーションがとれる出産は、部屋の雰囲気も明るく、お互い笑顔も見られるような環境になります。そんな環境作りも大切にしたいと心がけています。

病棟には業務、記録、保健指導、事故防止、防災などの係があります。私は、保健指導係で、保健指導に関することを中心に業務改善をしています。特に力を入れているのは助産外来の運営です。助産外来とは、助産師が産婦人科医師と協働しながら妊産褥婦および胎児の健康状態を管理するとともに、助産師の専門性を発揮しながら妊産褥婦とその家族が快適であり満足する質の高い助産行為及び看護サービスを提供するものです。私は昨年からエコーの勉強会などに出席し、今年から助産外来を担当させてもらえるようになりました。エコーや診察、一人一人に個別性のある指導を実施するため、技術も知識も必要です。今後も勉強し、対象者に必要とされる保健指導を実施したいです。

仕事で忙しい日々を過ごしていますが、「休みの日はアクティブに」が目標です。旅行、スポーツ、映画、音楽など、趣味はたくさんあります。それに付き合ってくれる家族や友人、同期、後輩に感謝です。私にとってプライベートを充実させることは、仕事への活力となっています。

最後に…仕事への向き合い方を学ばせてくれる先輩、何でも相談できる同期、私に付き合ってくれる後輩、恵まれた職場環境に感謝しています。仕事では大変なこともありますが、患者さんからの「ありがとう」この言葉に勇気をもらいます。さあ今日も分娩日和!!

エコーの勉強をするきっかけになった本です。まだまだ知識も実践も必要ですが…。

高校時代から始めたボート、今は趣味として漕いでいます。大会にも出場します!!（著者：一番右）

【編集・発行】
浜松医科大学ニュースレター編集部会

【発行日】
平成26年10月１日

【原稿募集】
小誌をご覧になられた感想はいかがでしたでしょうか。読後のご感想やご意見をお寄せください。
また、各欄（「研究最前線」「海の向こうで」「大学ニュース」「寄稿」「卒業生は今」など）への投稿や本学に関連する写真を、随時、募集しています。
職員や学生だけでなく、広く関係者の方々からのご提案をお待ちしております。
誌面づくりに、ぜひご参加ください。

広報室　koho@hama-med.ac.jp

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における連携協定を締結しました

6月23日（月）早稲田大学大隈記念講堂にて、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協定締結式が行われました。この協定はオリンピック教育の推進や大会機運の醸成等の取組を進めることを目的としています。協定締結大学は、本学を含めた552校です。

連携事項は、以下のとおりです。

1 人的分野及び教育的分野での連携
2 オリンピック・パラリンピック競技大会に関わる研究分野での連携
3 オリンピック・パラリンピック競技大会の国内PR活動での連携
4 オリンピックムーブメントの推進及びオリンピックレガシーの継承に関する連携

管理棟事務室を改修工事中です

昭和52年に建築された管理棟の改修工事が平成26年8月から始まりました。

築35年以上が経過し、建築・設備両ハードの性能面での劣化と機能性のソフト面への対応が求められていました。

耐震、機能の充実のため全面改修を実施し、安全かつ利便性と執務環境の向上を図ります。

【編集後記】
今年度第1号の浜松医科大学ニュースレターをお届けいたします。今号も皆さま方の研究、教育、部活、ボランティアなど多岐にわたる、また熱意あふれる活動の様子をお伝えしています。ご多忙の中、快く執筆いただきました皆さまに深く御礼申し上げます。また、今号では4月からの新執行部体制やリニューアルした保健管理センター・半田山会館をご紹介しており、ハード面・ソフト面ともに進化していく本学の姿を感じていただけるのではないかと思います。ぜひお手にとってご覧いただければ幸いです。

ニュースレター編集委員　T.O.

【お問い合わせ】
国立大学法人浜松医科大学　広報室
〒431-3192
静岡県浜松市東区半田山一丁目20番１号
TEL.053-435-2111（代表）
http://www.hama-med.ac.jp/

【浜松医科大学建学の理念】
第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

【浜松医科大学の目的及び使命】
浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。